

道徳のとびら

福島県では、学校と家庭が一体となった道徳教育を目指しています。

「特別の教科 道徳」Q & A

～学校と家庭が一体となって、子どもの心を豊かに育みましょう～



Q 道徳科の教科書を家で読むことを宿題として持ち帰ってきました。家ではどのようなかわりをすればよいのでしょうか。

A まずは、お子さんと一緒に、道徳の教科書を読んでみてください。そして、保護者の方が一人の人間として、どんなことを考えたのかについて、お子さんに伝えていただきたいと思います。また、気になった場面について、お子さんの考えを聞いてみるのもよいでしょう。学校だけでなく、家族等身近な方々とも考えを交流することで、子どもたちの考えが、より一層広がったり深まったりします。



I 小学校では、「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた教材」を通して、保護者の方と考えを交流しました！

【I小学校6年担任の先生より】

「道徳のとびら」第1号で紹介された「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた道徳科教材（高学年）」の授業を実践しました。その後、教材文を家庭に持ち帰り、家族と話し合うように伝えました。

翌日、保護者の感想を読ませていただきました。主人公が考えるきっかけとなる「お母さんの立場」からの感想も見られました。授業では、じっくりと考えることができなかった部分でしたので、児童が家族と考えることの大切さについて、改めて感じました。



つながる
広がる
深まる



お母さんは、「Aさん、熱があって休んでいるでしょ。そんなうわさ話にまどわされてはいけないよ。本当に感ぜんしているとしたら、それは、Aさんにとって、とてもつらいことなんじゃないかな。」
そう言いながら、いつものリズムでおさらを洗っていた。



Aさんの気持ちを考え、自分の子どもに話ができる「お母さん」はすごいです。私も悪いと思いつつ、教材文のように噂話を広げてしまう気がします。この「お母さん」のような言葉をかけられる大人になりたいと思います。

【保護者の方からの感想】



教材文はこちらに掲載しています。福島県教育委員会 HP <https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/gimukyoku57.html>

親子で話し合おう

聞いてみよう、震災を乗り越えてきた先輩たちに



日本福祉大学 教育・心理学部 教授 鈴木 庸裕

福島の子どもたちは10年近く前、3月11日の東日本大震災を乗り越えてきました。当時小学生だった人も高校生以上になっているのではないでしょうか。がんばってきた思い、つらい思い、信じられないような思い、もう覚えていない、思い出したくないなど、いろいろな声があります。コロナ禍のいま、思い通りにならないことや昨年とは違う学校や家での生活に、誰もが不安を感じていると思います。でも私たちには、東日本大震災後の生活を乗り越えてきたお兄さん、お姉さんやお家の方、先生、近所の方などの先輩がそばにいます。いつマスクなしで外出できるのか、部活や学校行事がのびのびと実施できるのか。こうした先の見えない不安な気持ちを、どのように乗り越えてきたのか。前向きな気持ちをもつために誰と何をしてきたのか。この先輩たちからこういった話を聞いてみてはどうでしょうか。すぐに答えや正解は見つからないかもしれませんが、でも自分で答えを探して動き出してみてもいいでしょう。

周囲の大人の方も、もし子どもたちからこういった相談があった場合には、「私はこう思うよ」と言葉をかけていただけるとありがたいです。

ふくしま道徳教育資料集には東日本大震災における、家族愛や郷土愛、命にかかわる多くの資料が掲載されています。ぜひ、親子で読んでみてください。
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/gimukyoku57.html>



見て、読んで、感じて、みんなの思い、考えを ～道徳推進校の取組から～



低学年から取り組む情報モラル教育

浅川町立浅川小学校

本校では、友達と考えを交流し、様々な考えにふれることを通して、自分の考えを広げたり、深めたりする道徳科の授業に取り組んでいます。2学年では情報モラルにかかわる話し合いを行いました。

遊ぶ約束をした友達がその時間に来なかったら……。

主人公はつかっとなり、友達を傷つけてしまうようなメールを送ろうとします。ふと立ち止まり、考える主人公。

この場面で、メールを受け取った相手はどんな気持ちになるかについて、体験的に考えました。振り返りでは、相手の気持ちを考えて判断することの大切さについて、自分の経験をもとに考えることができました。



すごいね〇〇名人、大好き小田川！

白河市立小田川小学校

2学年では、地域の方とのふれあいを通して、地域のよさに気付いたり、地域のすばらしさを学んだりする学習をしています。道徳科では、いつも安全な登下校を支えてくださる見守り隊の活動から感謝の心について考えたり、生活科では、地域探検や「〇〇名人」をゲストティーチャーに迎え、体験を通して郷土について学んだりしています。この日は、見守り隊の方が「竹細工名人」に変身。名人の手先の器用さに驚きながら、自分たちの住む小田川地区の温かさと人の魅力にふれる機会となりました。小田川っ子は、そんな地域の方々やふるさとが大好きなのです。



チームで取り組む道徳科授業

喜多方市立山都中学校

道徳科の時間は、担任以外の教職員も授業者となったりゲストティーチャーとして参加したりしています。教務主任から養護教諭まで誰もが道徳科の指導に関わることで、これまで以上に、子ども一人一人の考えや思いと向き合うことができました。この授業では、インターネットで批判的な書き込みをしてしまう心情やそれを止めようとした相手の考えを受け入れる寛容さについて話し合いました。授業の終末に、相手を受け入れることができなかった養護教諭の経験について話を聞くことで、寛容についての価値観を広げ、今の自分を見つめるきっかけとなりました。



差別や偏見について考える

県立四倉高等学校

※LHRでは「道徳を考えるLHR」を実施しています。第1回はふくしま道徳教育資料集を活用し、情報モラルや自由と責任等の視点から話し合いました。第2回は「新型コロナウイルス感染症に係るいじめの未然防止に向けた道徳教材」を用いて、差別・偏見について考えました。自分と同じ意見や違う意見について付箋を使って整理し、共有することで、様々な考え方を理解することができました。また、医療従事者の子どもが保育を断られた教材では、看護師と保育士それぞれの立場について考えることにより、問題を深く捉えることができました。

※ LHR：ロングホームルーム